

〈要約〉

エッセイ：ガバナンス概念に関する一考察 ～リーダーの役割を中心に～

Essay: A Consideration on Governance ～ On the Role of the Leader ～

亀川 雅人
Masato Kamekawa

本エッセイは、ガバナンスに関するテーマを概観するものである。ガバナンスの定義は様々である。ここでは、社会のあり方を問い、目的の設定とこれを実現する分業と協業の体系を構築し、この体系を効率的に調整する仕組みと捉える。

この体系にはリーダーが必要となるが、その役割は、問題を発見し、新たな体系を構築する起業家的リーダーと既存の体系を効率的に運営するリーダーに大別できる。また、経済体制のそれぞれで必要とされるリーダーの種類は異なる。資本主義経済における分業と協業で必要とされるリーダーの種類やリーダーの能力を発揮させるインセンティブシステムとしての私有財産制度について考察する。資本主義経済ではガバナンスと市場の関係が重要なテーマになるが、市場は必ずしもその機能を発揮できない。そこで、市場機能が働かない場合の国家が決める分業と協業の体系、階層化される組織の意味、民主主義的な意思決定の仕組みと分権的な市場による資源配分メカニズムの関係、計画経済と中央集権的な意思決定の仕組みについて考察する。

本エッセイの最終的なテーマは、企業のガバナンス、いわゆるコーポレート・ガバナンス (corporate governance) にある。資本主義経済体制や国家のガバナンスを論じるのも、その下位組織としての企業のガバナンスを考察するためである。国家体制は、社会のビジョンに基づき、これを実現する手段として下位組織を作らねばならない。社会のビジョンや目的の共有、個々人の役割認識やモチベーションに関して考え、現在の支配的企業形態である株式会社組織のガバナンス問題、とりわけ経営者の任免権の重要性を指摘する。

最後は、ガバナンスと環境変化との関係を述べる。とりわけ、日本の高度経済成長期と現在の成熟期にあるガバナンスの違いについて考察する。